

- 問1 宮崎県の産業構造や農業の特徴について述べた文として、統計的な背景から判断して最も適切なものはどれですか。 (2023年 沖縄県公立入試 類似)
- 温暖な気候や広大な土地を背景に、農業産出額の半分以上を畜産業が占めており、製造業よりも第1次産業の比重が相対的に高い。
  - 急峻な傾斜地を利用した段々畑において、みかんやいよかんなどの果樹栽培が盛んで、農業産出額の大部分を占めている。
  - 亜熱帯の気候条件を活かし、サトウキビやマンゴーなどの商品作物の栽培と、冬の温かさを利用した観光業に特化している。
  - 瀬戸内工業地域の一角を担っており、化学工業や機械工業などの製造品出荷額が、農業産出額を大幅に上回っている。
- 問2 熊本県の農業統計において、農業産出額が1,247億円に達する「野菜」と、1,147億円に達する「畜産」が大きな割合を占めている特色について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。 (2020年 熊本県公立入試 類似)
- 果実と花きの生産に特化した構造となっており、野菜や畜産の産出額は全国平均を下回っている。
  - 広大な平野を利用した稲作に特化しており、農業産出額の大部分を米が占めている。
  - 近郊農業の特性を活かして野菜の生産のみに集中しており、畜産や米の生産はほとんど行われていない。
  - 米、野菜、畜産、果実などがバランスよく生産されており、特に野菜と畜産の産出額が非常に高い水準にある。
- 問3 九州地方南部に位置する鹿児島県の大隅半島などには、「シラス台地」と呼ばれる火山灰が厚く堆積した地形が広がっています。この地域で肉用牛や豚などの畜産業が盛んになった地理的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 東京都公立入試 類似)
- 広大な台地をすべて森林にする計画があったが、火山ガスの影響で樹木が育たず、やむを得ず畜産に転換した。
  - シラス台地は標高が高く一年中冷涼な気候であるため、暑さに弱い肉用牛の飼育に適した環境であった。
  - 火山灰に含まれる特殊な鉱物資源が家畜の飼料として最適であり、周辺の県からも家畜が集まるようになった。
  - シラスは非常に水はけが良く、水田稲作に必要な水を保持しにくかったため、土地を広く活用できる畜産が発展した。
- 問4 鹿児島県に広く見られる、標高30m程度の平坦な面を持つ火山噴出物の台地では、その土壌の性質から、古くから土地利用に工夫がなされてきました。この地域の自然環境と農業の関係について説明した文として、最も適切なものを選択してください。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
- 堆積物が栄養分を豊富に含んでいるため、特別な肥料なしで稲の二期作が行われた。
  - 土壌が常に湿潤であるため、低湿地での栽培に適したレンコンの生産が盛んになった。
  - 土壌の保水力が極めて高いため、大規模な稲作地帯として開発が進んだ。
  - 水はけが非常に良く水田に適さないため、サツマイモなどの畑作や畜産が発展した。
- 問5 宮崎県の農業統計において、2020年の品目別生産量で全国1位となっている作物はどれですか。この作物は宮崎平野を中心に盛んに栽培されています。 (2023年 福島県公立入試 類似)
- きゅうり
  - さつまいも
  - てんさい
  - ねぎ
- 問6 沖縄県の産業構造が、他の都道府県と比較して第三次産業の割合が非常に高い理由として、地理的背景を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2026年 福岡県公立入試 類似)
- 広大な平野と豊かな水資源を活用した大規模な稲作が行われ、それに関連する製造業が発達したため。
  - 高緯度で冷涼な気候を活かし、大規模な機械化農業と乳製品の加工販売が一体化しているため。
  - 低緯度による温暖な気候やサンゴ礁などの自然資源を活かした観光業が、地域の経済を支える基幹産業となっているため。
  - 内陸部に位置し、海から遠いため、海上輸送に依存しない精密機械工業や高度な情報産業が集中したため。
- 問7 九州地方の再生可能エネルギーに関する調査報告において、大分県には日本最大級の出力規模を誇る八丁原発所があることが紹介されています。この発電所が位置する自治体名を次から選びなさい。 (2022年 千葉県公立入試 類似)
- 長崎県雲仙市
  - 熊本県阿蘇市
  - 大分県九重町
  - 鹿児島県霧島市
- 問8 九州地方の政治・経済の中核である福岡県の産業的特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。なお、統計資料によれば、福岡県の2010年時点の製造品出荷額は5兆円から10兆円未満の規模にあり、1980年からの30年間で約41.4%増加しています。 (2016年 東京都公立入試 類似)
- 北九州工業地帯が九州全域の製造品出荷額の9割以上を占めており、福岡市などの都市部には工業機能が一切存在しないという極端な偏りが見られる。
  - 県庁所在地の福岡市には政府の最先機関や企業の支店が集中し、工業面では近年、内陸部を中心に自動車工業などの組み立て型工業が発展している。
  - 1980年代から2010年にかけて製造品出荷額は減少を続けており、現在は製造業よりも広島県などの周辺県との貿易による仲継貿易が中心となっている。
  - 九州地方最大の工業県であるが、製造品出荷額の大部分は依然として戦前からの繊維工業や造船業などの軽工業によって占められている。
- 問9 鹿児島県に広く分布する「シラス台地」の土壌の性質として、現地の農業に最も大きな影響を与えている特徴はどれですか。 (2024年 山形県公立入試 類似)
- 粘土質で栄養分が豊富であり、稲作に非常に適している
  - 川が運んだ土砂でできており、水を通にくい
  - サンゴ礁が隆起してできたため、アルカリ性が非常に強い
  - 非常に水はけが良く、地表に水が溜まりにくい
- 問10 沖縄県の農業は、温暖な気候を活かした亜熱帯農業が特徴です。農業産出額の品目別割合を示した統計において、さとうきびなどの工芸作物を含む項目の割合が約40パーセントに達し、全国的に見ても独自の構成となっています。この項目に含まれる、沖縄県で生産が盛んな代表的な工芸作物はどれですか。 (2017年 愛知県公立入試 類似)
- 茶
  - さとうきび
  - 稲 (米)
  - 野菜
- 問11 沖縄県の伝統的な家屋において、家の周囲を石垣で囲んだり、フクギなどの防風林を植えたりする工夫が見られる主な理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 神奈川県公立入試 類似)
- 冬の時期に吹く冷たい季節風が室内に入るのを防ぐため
  - 地震が発生した際の家屋の倒壊を石の重みで食い止めるため
  - 台風による強い風の被害を最小限に抑えるため
  - 津波が住宅地に浸水してくるのを物理的に遮断するため
- 問12 鹿児島県の農業産出額は約4435億円と非常に高く、そのうちの約2837億円が畜産によって生み出されています。このように畜産の割合が極めて高い背景にある、この地域の自然環境の説明として最も適切なものはどれですか。 (2019年 埼玉県公立入試 類似)
- 平野が少なく山がちであるため、急斜面を利用した果樹栽培が中心となったため
  - 年間を通して温暖で降水量が多く、二期作などの米づくりに適していたため。
  - 火山噴出物が積もったシラス台地が広がり、水持ちが悪く稲作に不向きであったため。
  - 季節風の影響を強く受けるため、寒冷な気候に強い作物の栽培が優先されたため。